

6 スポーツボランティア

6-1 スポーツボランティアの実施率

スポーツボランティアとは、報酬を目的としないで、自分の労力・技術・時間などを提供して地域社会や個人・団体のスポーツ推進のために行う活動を意味している。

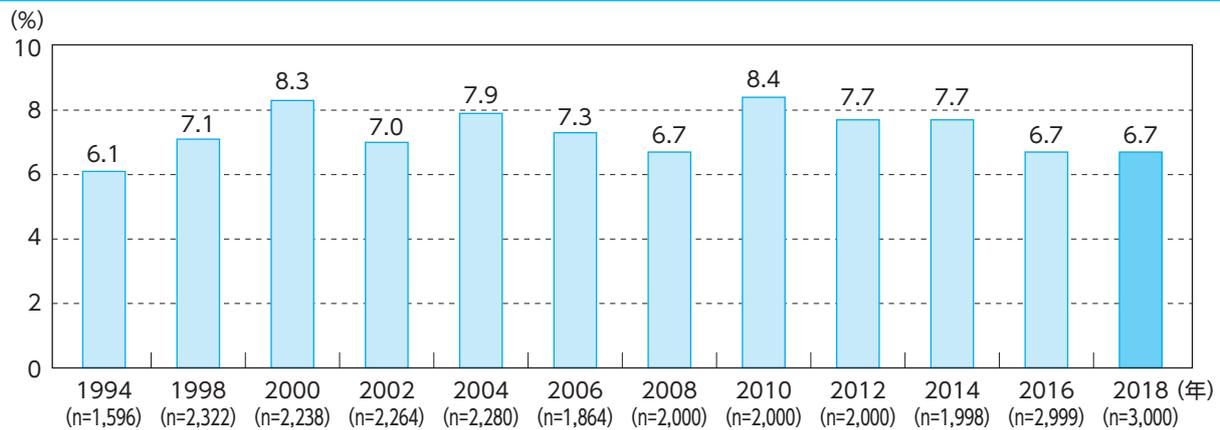
図6-1に、過去1年間にスポーツボランティアを行った者の割合を示した。2018年のスポーツボランティア実施率は6.7%で、2016年と同率であった。スポーツボランティア実施率は2010年に過去最高の8.4%となったが、その後はわずかながら減少している。今回の結果から、過去1年間のスポーツボランティア人口は710万人と推計された。

スポーツボランティア実施率を性別にみると、図6-2に

示すように男性は8.2%、女性は5.3%であり、男性の実施率が女性を2.9ポイント上回る。

図6-3には、年代別、運動・スポーツ実施レベル別のスポーツボランティア実施率を示した。年代別にみると、18・19歳が9.9%と最も高く、20歳代と50歳代が7.3%と続く。60歳代のスポーツボランティア実施率は、最も低い5.3%であった。

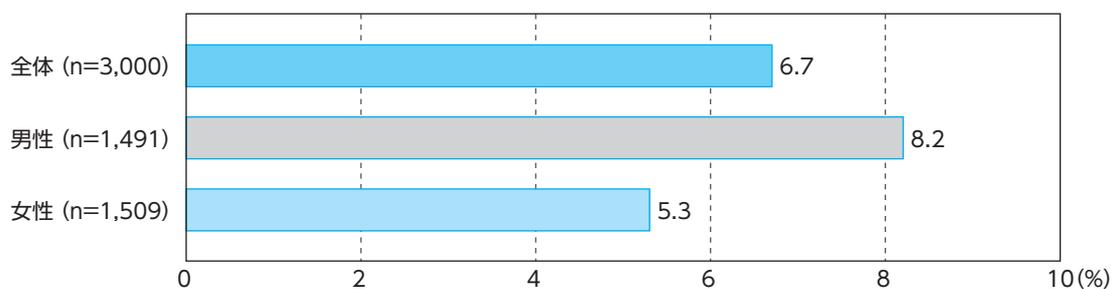
運動・スポーツ実施レベル別にみると、「レベル4」は13.9%と最も高く、「レベル1」8.0%、「レベル2」5.6%、「レベル3」5.1%と続く。過去1年間に運動・スポーツをまったく行わなかった「レベル0」は1.3%と、運動・スポーツ実施者と比較してスポーツボランティア実施率が極端に低い。



【図6-1】スポーツボランティア実施率の年次推移

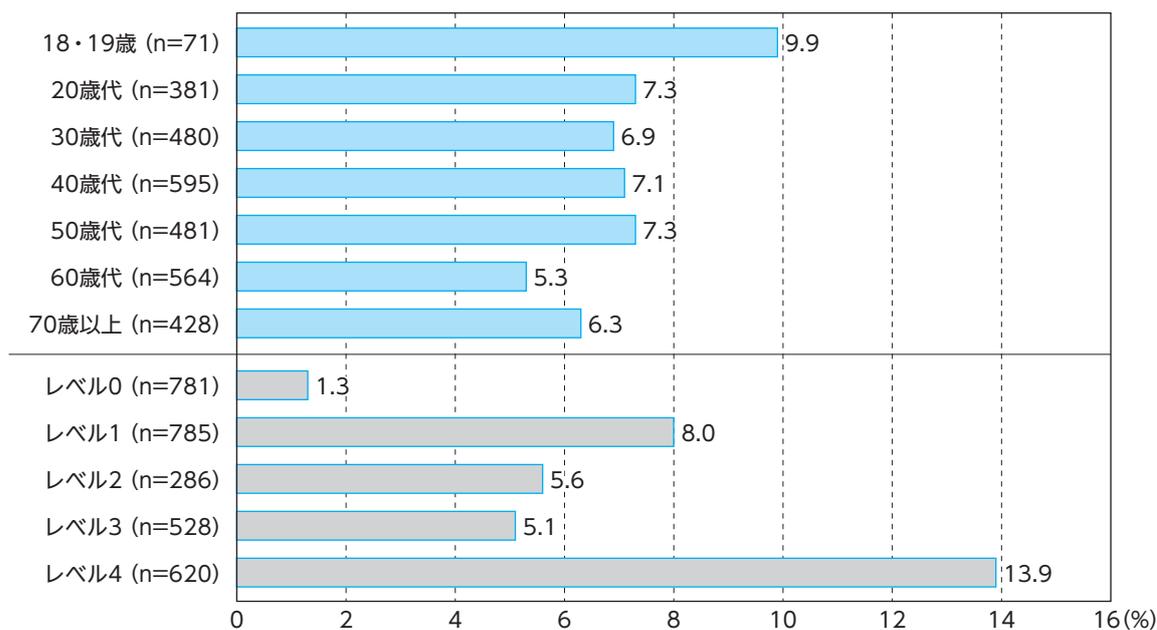
注) 2014年までは20歳以上、2016年以降は18歳以上を調査対象としている。

資料: 笹川スポーツ財団「スポーツライフに関する調査」2018



【図6-2】スポーツボランティア実施率(全体・性別)

資料: 笹川スポーツ財団「スポーツライフに関する調査」2018



【図6-3】スポーツボランティア実施率(年代別・レベル別)

資料：笹川スポーツ財団「スポーツライフに関する調査」2018

6-2 スポーツボランティアの実施内容

表6-1には『日常的な活動』『地域のスポーツイベント』『全国・国際的なスポーツイベント』に大別した具体的なスポーツボランティアの実施内容を示した。

全体では『地域のスポーツイベント』における「大会・イベントの運営や世話」の実施率が35.8%で最も高く、『日常的な活動』の「団体・クラブの運営や世話」31.8%、「スポーツの指導」26.4%が続く。年間の平均実施回数は、『日常的な活動』の「スポーツの指導」が43.3回と最も多く、次いで『日常的な活動』の「団体・クラブの運営

や世話」が25.0回、「スポーツ施設の管理の手伝い」が13.4回であった。

性別にみると、男性は『日常的な活動』の「スポーツの指導」34.4%、「スポーツの審判」33.6%、『地域のスポーツイベント』の「大会・イベントの運営や世話」31.1%、女性は『地域のスポーツイベント』の「大会・イベントの運営や世話」43.0%、『日常的な活動』の「団体・クラブの運営や世話」40.5%、「スポーツの指導」13.9%の順であった。男性は指導や審判、女性は運営や世話の実施率が高い特徴がある。

【表6-1】スポーツボランティアの実施内容(全体・性別：複数回答)

スポーツボランティアの内容		全体 (n=201)		男性 (n=122)		女性 (n=79)	
		実施率 (%)	実施回数(回/年)	実施率 (%)	実施回数(回/年)	実施率 (%)	実施回数(回/年)
日常的な活動	スポーツの指導	3位 26.4	43.3	1位 34.4	42.4	3位 13.9	46.7
	スポーツの審判	24.9	11.1	2位 33.6	12.4	11.4	5.0
	団体・クラブの運営や世話	2位 31.8	25.0	26.2	16.4	2位 40.5	33.9
	スポーツ施設の管理の手伝い	7.5	13.4	9.0	18.0	5.1	2.0
地域のスポーツイベント	スポーツの審判	18.9	8.3	23.0	9.7	12.7	4.6
	大会・イベントの運営や世話	1位 35.8	3.3	3位 31.1	3.2	1位 43.0	3.5
全国・国際的なスポーツイベント	スポーツの審判	1.0	2.5	1.6	2.5	0.0	—
	大会・イベントの運営や世話	4.5	1.4	4.9	1.0	3.8	2.3

資料：笹川スポーツ財団「スポーツライフに関する調査」2018

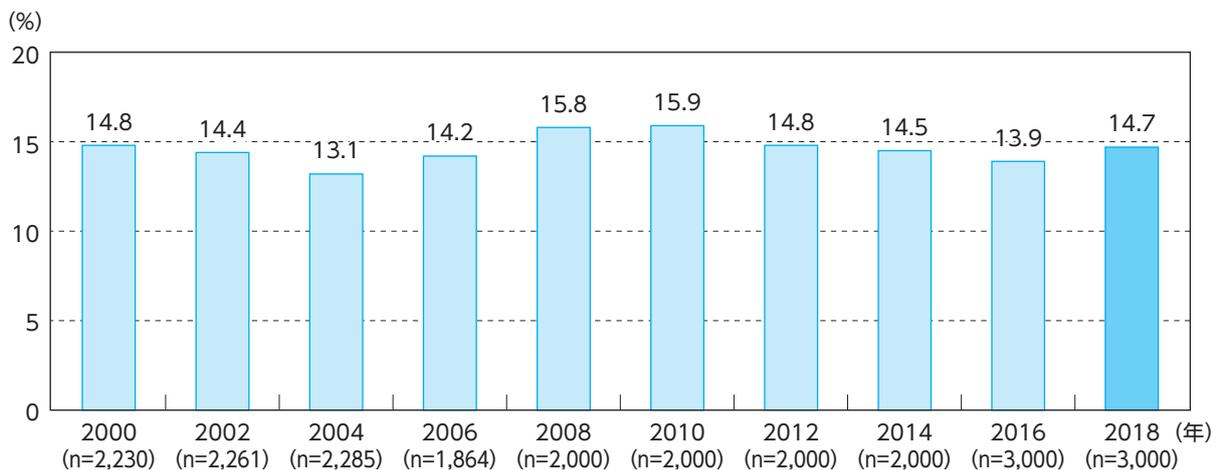
6-3 スポーツボランティアの実施希望率

今後のスポーツボランティア実施希望を「ぜひ行いたい」「できれば行いたい」「あまり行いたくない」「まったく行いたくない」「わからない」の5つの選択肢でたずねた。このうち「ぜひ行いたい」「できれば行いたい」と回答した者を合わせてスポーツボランティア実施希望率を算出し、**図6-4**に年次推移を示した。2018年のスポーツボランティア実施希望率は14.7%であった。2000年から経年で見ると、スポーツボランティア実施希望率は13~16%の間を推移している。最も実施希望率が高かった2010年以降、スポーツボランティア実施希望率は減少傾向にあったが、2018年は2016年より0.8ポイント増加した。

スポーツボランティア実施希望率を性別にみると、**図6-5**に示すように男性は16.6%、女性は12.9%であり、男性が女性よりも3.7ポイント高い。

図6-6には、年代別、運動・スポーツ実施レベル別のスポーツボランティア実施希望率を示した。年代別にみると、18・19歳の36.6%が最も高く、他の年代を大きく上回る。続いて20歳代が19.7%、40歳代が16.6%であり、70歳以上の8.9%が最も低かった。

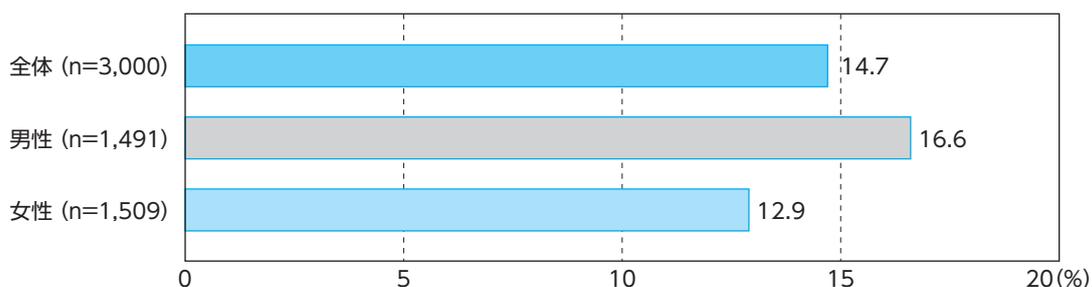
運動・スポーツ実施レベル別にみると、「レベル4」は24.5%であり、約4分の1がスポーツボランティアの実施を希望している。次いで希望率が高いのは「レベル2」の16.4%、「レベル1」の16.2%であった。過去1年間に運動・スポーツをまったく行わなかった「レベル0」は6.4%と最も低い。



【図6-4】スポーツボランティア実施希望率の年次推移

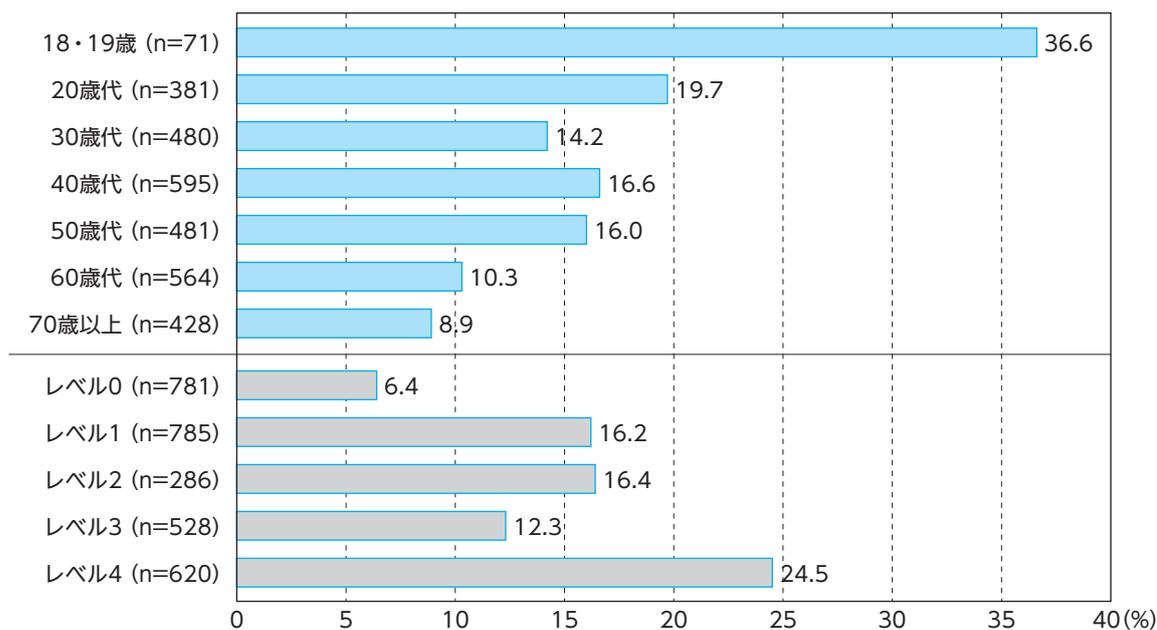
注) 2014年までは20歳以上、2016年以降は18歳以上を調査対象としている。

資料: 笹川スポーツ財団「スポーツライフに関する調査」2018



【図6-5】スポーツボランティア実施希望率(全体・性別)

資料: 笹川スポーツ財団「スポーツライフに関する調査」2018



【図6-6】スポーツボランティア実施希望率(年代別・レベル別)

資料：笹川スポーツ財団「スポーツライフに関する調査」2018

6-4 スポーツボランティア実施希望内容

今後、スポーツボランティアを「ぜひ行いたい」「できれば行いたい」と回答した者が希望する具体的なスポーツボランティアの内容を表6-2に示した。全体では「地域のスポーツイベントの運営や世話」50.0%が最も高く、「日常的な団体・クラブの運営や世話」26.7%、「日常的なスポーツの指導」22.1%が続く。

性別にみると、全体の結果と同様に「地域のスポーツ

イベントの運営や世話」が男性45.1%、女性56.3%と最も高く、女性が男性を11.2ポイント上回った。次いで男性は「日常的なスポーツの指導」31.3%、「日常的な団体・クラブの運営や世話」22.0%となった。女性は「日常的な団体・クラブの運営や世話」32.8%、「全国・国際的なスポーツイベントの運営や世話」28.1%と続き、男性はスポーツの指導、女性は大規模イベントの運営や世話を希望している点に特徴がある。

【表6-2】今後希望するスポーツボランティアの内容(全体・性別：複数回答)

(%)

スポーツボランティアの内容	全体 (n=438)	男性 (n=246)	女性 (n=192)
地域のスポーツイベントの運営や世話	1位 50.0	1位 45.1	1位 56.3
日常的な団体・クラブの運営や世話	2位 26.7	3位 22.0	2位 32.8
日常的なスポーツの指導	3位 22.1	2位 31.3	10.4
全国・国際的なスポーツイベントの運営や世話	21.0	15.4	3位 28.1
日常的なスポーツ施設の管理の手伝い	16.2	15.9	16.7
日常的なスポーツの審判	10.3	14.6	4.7
地域のスポーツイベントでの審判	9.6	12.6	5.7
スポーツ情報誌やホームページ作成の手伝い	5.5	6.9	3.6
全国・国際的なスポーツイベントでの審判	3.0	4.1	1.6

資料：笹川スポーツ財団「スポーツライフに関する調査」2018